

「21世紀成年者縦断調査」結果のポイント

厚生労働省が平成27年7月に発表した、「21世紀成年者縦断調査」（平成24年調査）結果によると、希望子ども数は10年前と比べ、独身者は男女ともに「子どもを希望しない」割合が高くなっていますが、既婚者では男女とも「3人以上」の割合が高くなっています。また、夫の家事・育児時間は、10年前と比較して休日の「4時間以上」、平日の「2時間以上」の割合が高くなっています。

1. 調査の概要

「21世紀成年者縦断調査」は、仕事の有無、就業形態、希望子ども数、子ども観、家事・育児時間などを継続的に調査し、少子化対策など厚生労働行政施策のための基礎資料を得ることを目的に、平成14年以降毎年実施しています。

2. 希望子ども数の世代間比較

14年調査と24年調査において、独身だった者及び結婚していた者の「希望子ども数」（全部で何人の子どもを欲しいか）をみると、「独身だった者」では「0人」と回答した人が、14年調査では男性8.6%、女性7.2%でしたが、24年調査では男性15.8%、女性11.6%と割合が高くなっています。（図1）

一方、「結婚していた者」では「3人以上」と回答した人が、14年調査では男性31.4%、女性30.4%でしたが、24年調査では男性46.2%、女性47.4%と割合が高くなっています。（図2）

図1：独身だった者の希望子ども数 (%)

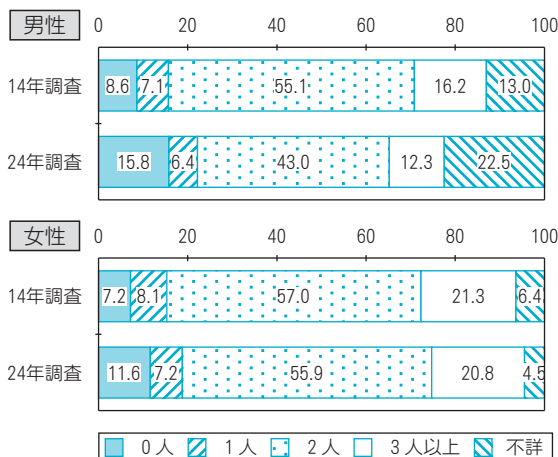
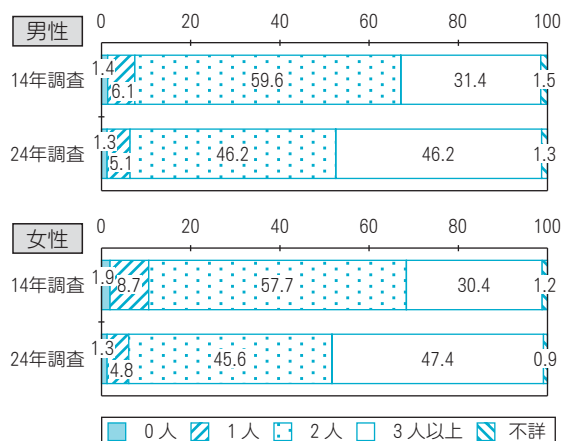


図2：結婚していた者の希望子ども数 (%)

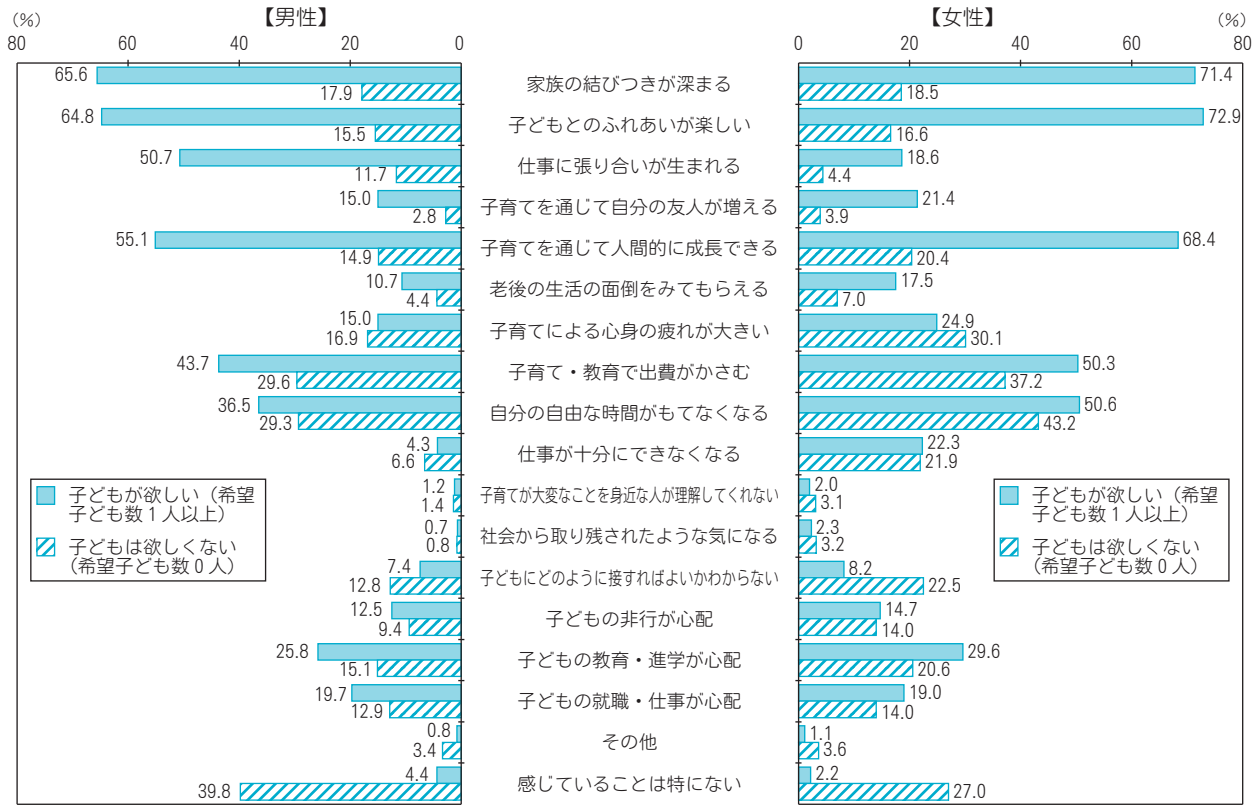


3. 独身者の子ども観

24年調査時に独身だった者の「子ども観」（子供を持つことに関する考え方）を性別、希望子ども数の有無別にみると、「子どもが欲しい（希望子ども数1人以上）」人では、男性・女性ともに「家族の結びつきが深まる」（男性65.6%、女性71.4%）、「子どもとのふれあいが楽しい」（男性64.8%、女性72.9%）、「子育てを通じて人間的に成長できる」（男性55.1%、女性68.4%）の割合が高くなっています。

「子どもは欲しくない（希望子ども数0人）」人は、男性では「感じていることは特にない」（39.8%）が最も高く、次いで「子育て・教育で出費がかさむ」（29.6%）、「自分の自由な時間をもてなくなる」（29.3%）」となっており、女性では「自分の自由な時間をもてなくなる」（43.2%）が最も高く、次いで「子育て・教育で出費がかさむ」（37.2%）、「子育てによる心身の疲れが大きい」（30.1%）となっています。（図3）

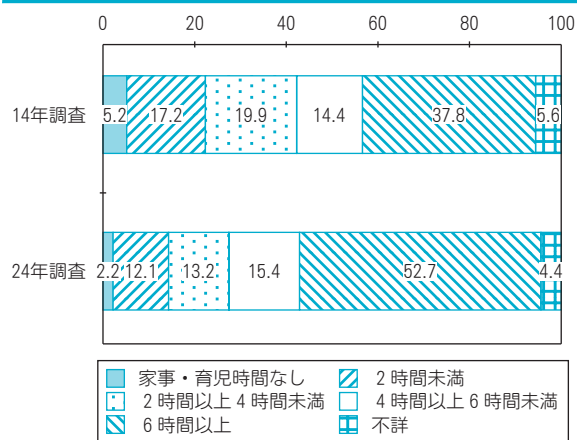
図3：独身だった者の性別、希望子ども数の有無別にみた子ども観の状況（複数回答）



4. 夫の家事・育児時間の世代間比較

14年調査と24年調査において、夫の家事・育児時間を休日・平日別にみると、10年前に比べ、休日は「家事・育児時間なし」の割合が低くなり、「4時間以上6時間未満」と「6時間以上」の割合が高くなっています。（図4）

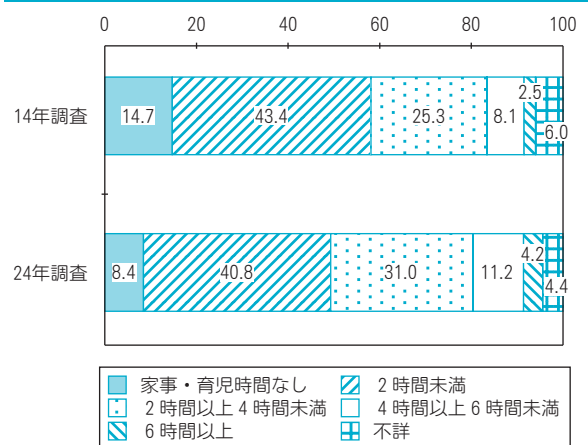
図4：夫の家事・育児時間（休日）の状況（%）



平日は「家事・育児時間なし」の割合が低くなり、「2時間以上4時間未満」、「4時間以上6時間

未満」、「6時間以上」の割合が高くなっています。（図5）

図5：夫の家事・育児時間（平日）の状況（%）



夫の家事・育児参加は積極的になっています。「イクメン」の言葉も浸透してきており、夫の育児休暇取得率向上に取り組む企業も見受けられます。社会全体で子育てに取り組む環境が整えば、出生率上昇に期待が持てます。（奥 桂子）